

まず、始めに私の市長就任2期8年総括であります。

私は市政推進にあつては「議会制民主主義を尊重し、市民の声を市政につなぐ」を基本理念に、「安心のまち蒲郡」「自然と共生するまち蒲郡」「明るく元気なまち蒲郡」の3つを基本施策の柱として誠心誠意を尽くして、まちづくりに取り組んでまいりました。

しかしながら、今まで経験したことのない少子高齢化社会の到来、危機的な国・地方の財政状況の悪化、情報化の進展、住民の価値観の多様化等々に加えて、地方分権の確立、市町村合併の全国的な展開、「三位一体の改革」による財源不足というような、厳しい財政状況において、大変苦しい行政運営が求められる状況にあります。

このような中で「真の自立できる蒲郡市」を作り上げるために、市議会の皆さん、市民の皆さんからのご理解とお力添えをいただきながら、市政を進めてまいりました。

今までの総括としまして、私の2期8年間の主な実績を、大きく5つの項目ごとに分けて申し上げます。

まず始めに、行財政改革に取り組んできたこととあります。その内容は、まず、私の給与を20%削減し、退職手当についても2分の1に減額しました。また、市議会にもご協力を頂きまして、議員定数を26人から-4の22人にさせていただきました。

職員人件費の抑制としては、職員数を8年間で削減目標設定時の職員数1,366人から13.4%の1,183人を削減し、平成19年4月1日現在の職員数を1,183人としました。

市内39の公共施設の管理につきましては「指定管理者制度」を導入し、市民サービスの向上と経費の削減に努めました。その削減見込み額は約6,600万円であります。

赤字財政にならないように財政危機の要因分析を踏まえ、財政健全化に向けて公共用施設の建設事業などの投資的経費については、長期的な実施計画を定め、市債発行を抑制し、市長就任時の起債残高586億円から約32億円を減額してきました。また、

有料広告の導入、未利用土地の売却、補助金の見直し、公共施設の廃止、削減、見直しによって、経費の削減に努めるとともに、市税収入において収納率の向上、滞納繰越分の削減にも努め、財源確保に取り組んでまいりました。

競艇の全国的な低迷状況を打開するため、通年ナイターレースに移行し、売上げ向上に寄与してきました。

次に、安全安心のまちへの取り組みについてであります。

東海地震、東南海地震というような大地震に備えて、市民の皆様の非難場所となる市内20全ての小中学校体育館の大規模耐震補強工事は、平成19年度までに完了させていきます。また、市内の全体育館内には、緊急食糧、仮設トイレ、避難者用毛布の配備も終了しております。合わせて市内保育園の園舎及び遊戯室の耐震化を完了させてきました。また、犯罪防止対策として不審者情報や犯罪情報のメール配信を実施させました。また、青パトによる市内巡回、こども110番事業、防犯パトロール実施団体への支援など、多発する街頭犯罪の防止に努めてきました。

次に、福祉施策の充実への取り組みであります。

市内の中学校単位の各地区に「児童館」を整備してきて、全校区の整備を完了しております。

子育てへの支援としましては、子育て支援センターを市内の2箇所に設置しました。また、低年齢児保育園を増やし、待機児童の解消を図るとともに、一時保育を市内2園で開始しまして、保育の充実を図ってまいりました。

障害者の方への施策としましては、相談支援窓口として、**浜町福祉センターに「障害者支援センター」**を設置しました。

次に、「こころ豊かな教育の充実」への取り組みについてであります。

小中学校に2学期制を採用し、ゆとりある教育制度を導入すると共に、市内全小中学校の図書室には、空調設備を整備しました。

2箇所の老朽化していた給食センターを一箇所にまとめ、新給食センターを建設しました。また、

平成18年11月からは米飯給食に、水源地の設楽町産米の「チヨニシキ」を採用しました。

市民の皆さんに身近な市政を目指し、「市長への手紙」(年、約300通)「市長対話ざっくばらん」(年、13回)「何でも出前講座」(年、約170回)を実施してまいりました。

最後に、生活資本の充実としまして、都市基盤の整備への取り組みであります。

長年の市民の願いでありました名鉄とJR全線の鉄道高架事業が、平成2年6月の事業認可以来、15年の歳月を経て事業が完了しました。また、

国道23号蒲郡バイパスの着手並びに東三河インターまでの事業化決定に国・県に積極的に要望し、今年の春に、念願の事業化が決定しました。また、国道247号中央バイパスの全線開通も平成20年にフィールまで開通します。次の任期中には全線開通を目指しております。

以上、私の2期8年の総括としてまとめさせていただきました。